

We can make safety～沖縄の未来へつなぐ～

沖縄県立首里高等学校

3年生 小林 紅音

皆さんは、旅行に行く時、何を重点的に見て計画を立てますか？観光スポットの多さ？物価の安さ？有名テーマパークの有無？人それぞれ、様々な理由で旅行先やそこでの行動パターンを決めると思います。しかし、皆さんは旅行に行く時、「もしもの時に安心してそこに滞在出来るか。」ということ考えたことがあるでしょうか？

私は福島県で生まれ、10年間をその地で暮らしました。2011年3月11日に東日本大震災を経験し、避難目的でここ沖縄県に越してきました。あの日失われた多くの命、その半数が家に閉じ込められて逃げ遅れた、避難場所が把握出来ていなかったなどの理由でその尊い命を落としているのです。そしてあの日、東北には各地、各国からたくさんの観光客の方が来ていました。その方々が東北で被災し、行方が分からなくなったまま、若しくはそのまま命を落とした方は把握出来ている数だけで約900人を超えます。それだけではありません、例年多くの観光客が訪れる人気観光地、熊本県。2016年4月14日に起きた震災により1000人以上の観光客がその地で亡くなりました。

私自身が震災から得たこと、そして、連日報道されるニュースやメディアから学んだことを踏まえ、沖縄の観光に改めて追求して欲しいこと、それは他ならぬ、「安全性」です。勿論、観光スポットの数や自然の美しさは観光客を増やし県を活性化させるために必要不可欠でしょう。しかし、沖縄が誇る自然の美しさは、時に我々人間に対して牙を向くことがあるのです。日本は海外に比べプレートが密集しているため地震の起きやすい「地震大国」です。いつ、どこで、どれくらいの規模の地震が起きるか、そしてその地震がもたらす二次災害の大きさはどのくらいなのか。それは私たち人間にも、そして日本が誇る科学技術を持ってしても完全な予測ができないのです。だからこそ、世界中の人々に絶大な人気を誇る観光地、沖縄は、他のどの観光地にも負けないくらいの「安全性」が求められるのです。

沖縄を観光する人たちの大きな楽しみである海水浴やホテルステイ。沖縄の海の美しさはどこにも負けないと私も誇りに思います。北部に行くと海辺に隣接した宿泊施設がほとんどです。私の家族も沖縄の海が大好きでよく家族全員でビーチ付近のリゾートホテルに出向き、休暇を楽しむことがあります。ところが、どんなに素敵なホテルでも、私たちの目につく位置にハッキリとした避難場所の掲示や、災害時の対策などが示されていません。このままでは、もし大きな災害が起こった時、現地の人々、観光客の方々を含めた多くの被害者を出しかねません。観光客をおもてなしする私たちも災害について学び、対策を明確にしていく必要があるのです。私たちが対策を怠ることで沖縄の観光業の未来にも

影響が出てしまうかもしれません。

では、どうやって対策をしたらよいのでしょうか。

今では緊急地震速報などの技術が発展し、地震を早めに予測できるようになりました。

しかし、技術を磨くだけでは、真の安全を得ることは出来ません。災害を予測し迅速な行動力と共に、必要不可欠になるのは、「観光客に対する思いやりの気持ち」なのです。

もしこの沖縄で災害が起きたら、観光客の方の恐怖心と不安感は計り知れません。まして小さな子どもや、高齢者の方々、障害を持ってる方そんな方は尚更でしょう。そんな方たちがパニックにならないように声を掛けてあげたり、避難場所まで寄り添う心遣いが必要です。出会ったばかりの人だとしても、この現状を共に生き抜く為に手を取り合うという勇気。これは観光立県である沖縄にとって大切なことなのです。私自身の経験でも沖縄に避難のために引っ越してきた際、「大変だったね。何か困ったことがあったら助けるからいつでも声かけてね。」「沖縄は比較的地震も少ないから安心してね。」など、沢山の優しく声掛けて頂いて知らない地で暮らしていく不安が和らいだのを覚えています。そして、この気持ちは観光業に関わる方だけが心がけるのでは無く、沖縄に住む私たち、全員が心がける必要があります。確かに、いざ災害が起きたら誰もが焦り、恐怖を覚えるでしょう。私もそうでしたから。しかし、そんな時こそ観光客を迎える welcome んちゅとして、みんなの手を取り助け合うという力が必要なのです。私たちの勇気と思いやりが沖縄の観光に必要な「真の安全」を作り出すのです。

如何ですか？今の観光にはただ、「楽しさ」を揃えるだけではなく、「安全且つ楽しむ」という2つを兼ね揃えておく必要があるのです。災害が多く、たくさんの方が犠牲になった日本だからこそ出来る防災対策があるはずです。そしてその1歩をここ沖縄から始めることで、沖縄はもっと観光客に楽しんでもらえる、人気の観光地に進化します。沖縄の自然の美しさ、文化、歴史を世界に発信しここにしかない「okinawa ブランド」を守るためにも私たちが出来ることを始めましょう！

Let 's create safe and fun Okinawa!!